

しまねの社会教育だより



大田市子育て支援センターにて



体験講座 益田会場にて



安来市幼稚園職員研修にて



松江市「やくも星キラくらぶ」にて



松江市「本庄親プロジェクト」にて



県立少年自然の家にて



特集 | 子どもを核にした地域の活性化

2010.
3月号

Vol.3 photo 『しまね学習支援プログラム』を活用した「親学講座」「プログラム体験講座」



松江市大庭公民館にて



江津市渡津保育所にて



県立青少年の家[サン・レイク]にて



体験講座 隠岐会場にて

講座名	開催日時	開催場所	講師
7-① もし、子どもが〇〇で育ったら	2010年3月14日(日)	隠岐会場	島根県立生涯学習推進センター
7-② もし、子どもが〇〇で育ったら	2010年3月15日(月)	松江会場	島根県立生涯学習推進センター

7-① もし、子どもが〇〇で育ったら

【目的】「もし、子どもが〇〇で育ったら、どんな子どもになるか、想像を膨らまして、子どもが育つ環境や子育てについて考えてもらうこと。」

【内容】「もし、子どもが〇〇で育ったら、どんな子どもになるか、想像を膨らまして、子どもが育つ環境や子育てについて考えてもらうこと。」

【参加費】無料

【申し込み】島根県立生涯学習推進センター 生涯学習課 電話 0852-22-1111

「子どもを核にした地域の活性化」

島根県における放課後子どもプランについて

平成19年度から放課後子どもプラン推進事業がスタートし、3年目を終えようとしています。各市町村では地域の実情に応じながら、留守家庭の児童に対し毎日の生活の場を提供する「放課後児童クラブ」に加え、地域の大人たちが異年齢の子どもたちに交流・体験の場を提供する「放課後子ども教室」の開設も進んでいます。

放課後子どもプランの取組みを紹介します。

■島根の放課後子どもプランとは？

地域の宝である子どもを地域全体で育むという基本理念に基づき、群れて遊ぶことが少なく、ともすればゲームやテレビで過ごしがちな子どもに、地域の大人たちの力を結集して放課後や休日を健やかに過ごすことができる環境を保障し、地域での子どもの育ちを支えようとするものです。



■期待される効果

1

地域の教育力の再構築

「放課後子どもプラン」は、地域の教育力を再構築していく具体的なきっかけとなるものです。できるだけ多くの地域住民が参画し、広く情報を共有することで、大きな推進力にしていくことが望まれます。

2

学校と地域社会との連携協力や信頼関係の構築

学校と地域社会との連携協力や信頼関係の構築に向けて、「放課後子どもプラン」を十分に活かしていく必要があります。

3

家庭の教育力の向上

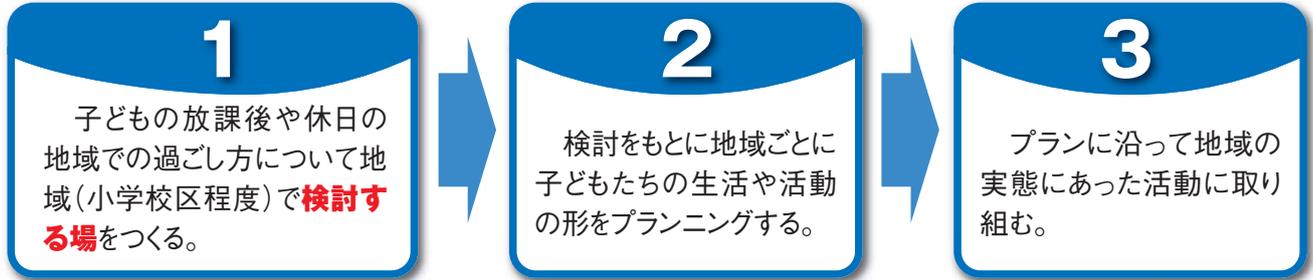
「放課後子どもプラン」を家庭の教育力の向上に結びつける視点も重要です。プランは保護者が地域の行事や活動に積極的に参加するきっかけづくりにもなります。

■島根の放課後子どもプランのめざすもの

1. 社会総がかりで子どもの育ちを支える気運の醸成と仕組みづくりのため、すべての小学校区ごとに地域内の子どもの放課後や休日の過ごし方が検討される場づくりをめざします。
2. 国庫補助事業である「放課後子ども教室推進事業」や「放課後児童健全育成事業」の推進をはじめ、放課後の子どもたちを対象とした様々な取組みが、地域の実態に応じて相互に連携協力しながら、総合的・体系的に推進されることをめざします。
3. 関係機関が、より連携を強め、取組みの推進にあたることをめざします。県の関係各課も連携体制を確立し関連施策の推進を図ります。

～地域が一体となった子育てをめざして～

■島根の放課後子どもプランの進め方



*放課後子ども教室や放課後児童クラブの関係者、行政関係者(教育委員会及び福祉部局)、学校関係者、社会教育関係者(公民館等)、児童福祉関係者、PTA関係者及びスポーツ少年団関係者や子ども会関係者など、放課後や休日に地域の子どもたちと関わる多くの地域住民

■検討のポイント

- 放課後や休日に安全で安心できる生活の場があるか。
- 子ども同士(異年齢)の多様な関わりや子どもが群れて遊ぶ機会があるか。
- 子どもの関心や意欲に応じた様々な活動や体験の機会があるか。
- スポーツ活動(スポーツ少年団等)や文化活動、子ども会などで、日程や参加者が重なったり競合したりしていないか。
- たくさんの行事の中で、かえって子どもが多忙になりゆとりが失われていないか。

■プラン推進のバロメーターは「放課後子ども教室」と「放課後児童クラブ」の活用

放課後子どもプランは地域の実情に応じ、地域にある既存の組織や取組みなどをうまく活用・連携しても進めていくことができます。その中でも、国庫補助事業である「放課後子ども教室推進事業(放課後子ども教室)」と「放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)」という2大メニューを活用することは大きなポイントです。

「放課後子ども教室」

「子どもの居場所」として公民館や学校の余裕教室を活用し、地域の大人がボランティアとして参画し、放課後や週末に子どもたちが体験や交流を行う場として開設されてきたものです。異年齢で自由に遊んだり、文化体験やスポーツを楽しんだり、ものづくりや読書をするなど内容や実施の形態は地域によって様々です。
(放課後子ども教室推進事業)

16市町133教室開設(22年2月現在)

「放課後児童クラブ」

保護者が仕事等により昼間家庭にいない児童(小学校に就学しているおおむね10歳(小学3年生)未満の児童)に対して生活の場を提供するものです。専用のスペースがあり、専任の指導員が配置されています。

(放課後児童健全育成事業)

18市町175クラブ開設(22年2月現在)※国庫補助対象外クラブを含む

■両事業で約80%の小学校区をカバー(22年2月現在)

島根県の放課後子どもプランの基本方針は、「島根県教育庁生涯学習課」のホームページでご覧になれます。
「島根県教育庁生涯学習課」URL <http://www.pref.shimane.lg.jp/shogaigakushuu/>

古志原子ども広場【鳥根県松江市】 ～子どもの輝く地域づくり～



小物づくり

■事業の目的・理念

- 子どもが人との関わりの中で自他を大切にしながら進んで活動する態度を育成する。
- 子どもたちの育ち環境(場・人間交流の機会)を提供する大人や地域の体制をつくる。
(松江市放課後子ども教室推進事業実施要項より)

■教室の実施場所

- 古志原公民館、小学校校庭、幼稚園園庭(公民館広場)
- 富原コミュニティセンター(富原広場)
- 古志原町民会館(ふたご広場)
- 香南団地集会所(香の木広場)

■教室の開催日

- 月曜日 14:30～16:30(公民館広場)
- 水曜日 14:30～16:30(香の木広場)
- 土曜日 9:00～11:30(公民館広場・富原広場・ふたご広場)
※その他、不定期でも開催

■参加対象者

- 古志原小学校に在籍、または古志原地区に居住する児童(全児童対象)
- 中学生、高校生のボランティア参加
- 希望する幼児の参加

■申込み手続きなど

- 学校をとおして、参加申込用紙を配布
- 登録申込後、保護者説明会を実施して、事業についての理解を図る。
- 公民館広場、富原広場、ふたご広場、香の木広場ごとに登録を行う。

参加実績

	平成19年度	平成20年度(12月末現在)
登録児童数	246人	270人
実施回数	177回	112回
参加者数	2,988人	2,612人
関わった大人の人数	1,122人	872人

※参加者数、関わった大人(安全管理員数+ボランティア数)は延べ人数

活動内容

- 自由遊び、体験活動、読み聞かせ、自然観察、野菜栽培、年中行事など
- 放課後児童クラブと広場の子どもたちの自由な交流

活動日程表(平成20年11月より)

期日	時間	活動内容	備考(会場)
11月1日(土)	9:00～11:30	さつまいもを調理しよう	富原
11月2日(日)	9:00～15:30	公民館まつりに参加しよう	公民館・富原・香の木・ふたご
11月5日(水)	14:30～16:30	やきいもをしよう	香の木
11月8日(土)	9:00～11:30	やきいもをしよう	公民館
11月8日(土)	9:00～11:30	さつまいもを調理しよう	ふたご
11月10日(月)	14:30～16:30	野菜の世話をしよう	公民館
11月12日(水)	14:30～16:30	好きな遊びや読書をしよう	香の木
11月15日(土)	9:00～11:30	ボンボン玉をつくろう	公民館
11月15日(土)	9:00～11:30	小物作りをしよう	ふたご
11月17日(月)	14:30～16:30	スポーツを楽しもう	公民館
11月19日(水)	14:30～16:30	小物作りをしよう	香の木
11月22日(土)	9:00～11:30	木の葉で作品をつくろう	公民館
11月22日(土)	9:00～11:30	プラ版でキーホルダーを作ろう	富原
11月26日(水)	14:30～16:30	好きな遊びや読書をしよう	香の木
11月29日(土)	14:30～16:30	ボールで遊ぼう	公民館



太鼓の会による太鼓体験活動



近くの公園でドッジボール

コーディネーターや地域の方々などの参加

〈コーディネーター〉

- 採用・募集 古志原子ども広場実行委員会が適任者を松江市教育委員会に推薦し、市教育委員会が委嘱
- 配置人数 公民館広場、富原広場、ふたご広場、香の木広場に1人ずつ配置

〈安全管理員、ボランティア〉

- 採用・募集 古志原子ども広場実行委員会が募集。地域の方々、民生児童委員、子供会役員、保護者など。
- 配置人数 1回平均5～6名【中高生がボランティアとして参加】

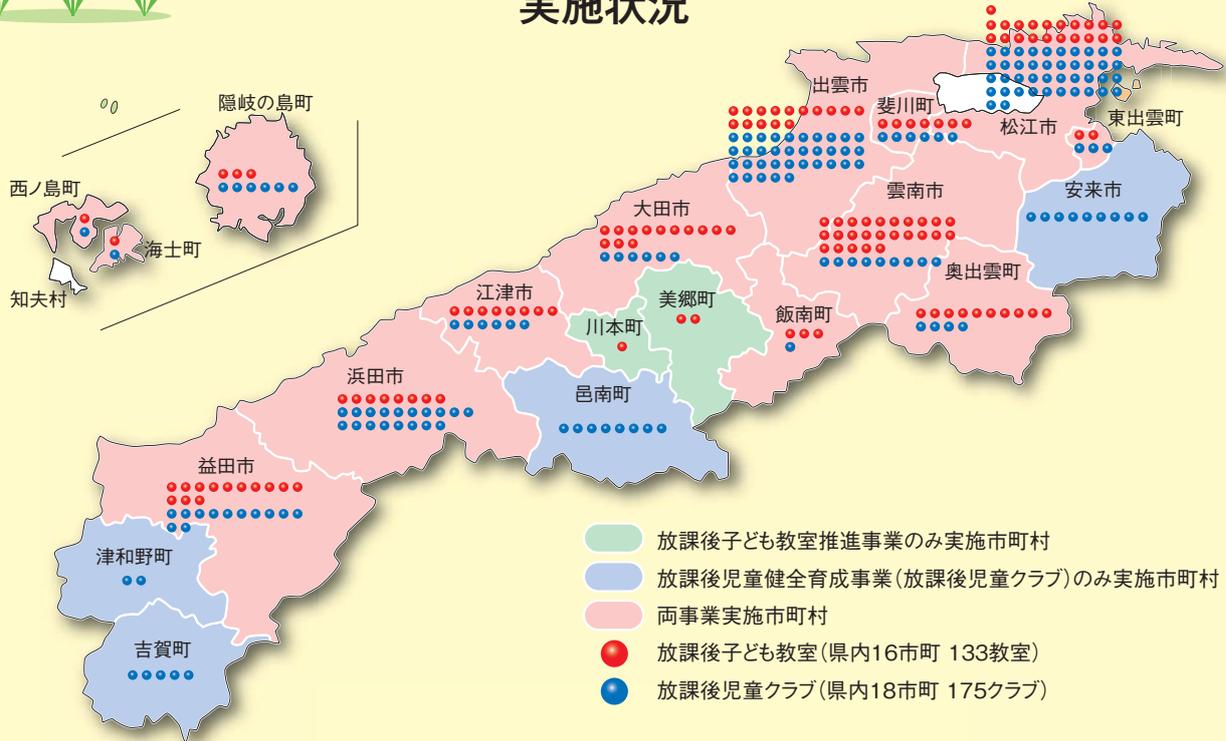
事業を実施して

- 公民館を主会場として実施しているが、地域の「ごく身近な集会所などでも開催したい」という声を受けて、地区内の各地に広場が広がっている。
- 障がいを持った子どもも参加している。
- 多様な活動を通して生活力、コミュニケーション能力の向上、心の安定が見られる。
- 保護者は子育てについて考えるきっかけとなり、保護者同士の交流の場となっている。
- 保護者、高齢者、地域住民が活動に参加することにより、地域で子どもを育てるという意識が高まっている。
- 子どもが公民館活動等に参加することに伴い、保護者、祖父母も参加することが多くなり、地域活動が活性化している。また、地域のよさを再発見し、郷土愛が生まれている。



平成21年度 放課後子ども教室及び放課後児童クラブ 実施状況

(平成22年2月現在)



※放課後子ども教室数等は、平成21年度放課後子どもプラン推進事業費県費補助金事業計画書及び平成22年2月鳥根県教育庁生涯学習課実施「放課後子どもプラン及び放課後子ども教室実施状況市町村アンケート」による。

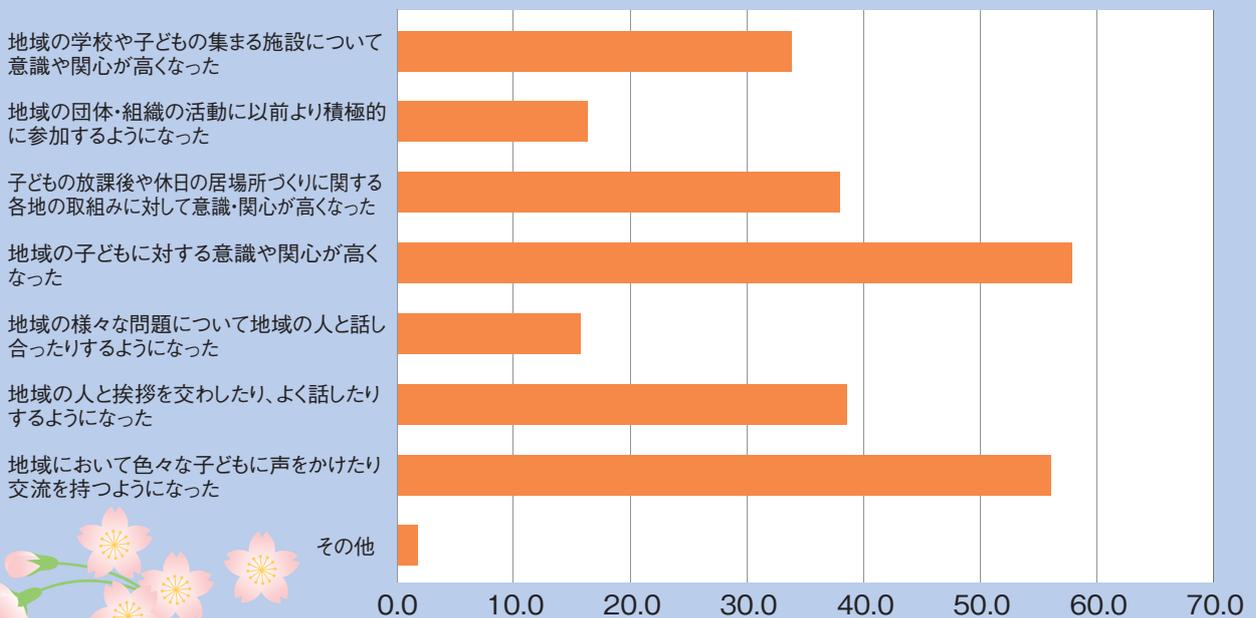
※放課後児童クラブ数は、厚生労働省放課後健全育成事業実施状況調査(平成21年5月1日現在)による。国庫補助対象外クラブを含む。



**放課後子どもプランの取組をとおして、
地域が一体となった子育てが進んでいます。**

放課後や休日に子どもと関わる活動を通じての自身の変化について(%)

(平成21年度鳥根県放課後子どもプラン指導員・ボランティア研修会～第1研修～参加者アンケートより 回答数337)



しまね学習支援プログラム「乳幼児の健やかな成長のために」 ～親学講座標準進行マニュアル～

通称『親学プログラム』といいます

『親学』を体験しましょう!!



『親学』とは

以前は、大家族の中、また、地域社会の中で自然に親としてのふるまいを学ぶ機会がありました。現在は、子育て情報があふれている一方で、子育て世代が同世代や子育て経験者と体験を話し合う機会も少なく、孤立感にさいなまれている親が多い状況です。

子育てをするには、親になるための学習も必要です。

『親学』とは、子育て中の親や乳幼児の養育にかかわる人たちが親としての力をつける「親の学び」ととらえています。

『親学プログラム』とは

参加型学習を用いて、楽しく参加者同士が交流しながら、親としての役割や子どもとのかかわり方を学び身につけるプログラムです。

「親としての心構え」「親子のコミュニケーション」「生活リズム」「しつけ」「安全と健康」「遊び」「個性と夢」の7つのテーマ、15のプログラムからできています。

生涯学習推進センターが作成し、平成20年に市町村教育委員会・福祉部局・公民館・子育て支援センター・保育所・幼稚園・小学校等に配布しました。

参加者の声

『親学プログラム』「正しいしつけは子どもへの大切な贈り物」を体験して…

日頃よく会うメンバーですが、具体的な子育てに対する悩みや不安を話す機会がなかなかないので、有意義な場でした。

みんなが同じような体験をして、同じように悩んでいるということが分かるだけで、少し気持ちも楽になり、また、毎日がんばれるような気がします。

楽しく子育てしていきます!!

(子育て中の女性)



松江市八雲町「やくも星キラくらぶ」での『親学』より

楽しく

立ち止まって

学び合う

『親学プログラム』の活用が広がっています

実践紹介 No.1 松江市大庭公民館 幼児学級の取組み

実態課題

地縁的なつながりの希薄化や核家族化が進行し、子育てに不安やストレスをかかえる若い親世代が増えている。そんな若い親世代を支援しようと、公民館が核になり、定期的に幼児学級「ふたば学級」を開催している。

その「ふたば学級」の活動に、日頃の子育てについて立ち止まって考えたり、気づいたりする機会を設けたいという願いがあった。

Step1

『親学』研修会[指導者研修]の実施

10月20日

「ふたば学級」の企画・運営を担当する公民館主事と幼児学級ボランティアに保健師も加わり、『親学プログラム』の5種類のワークショップとアイスブレイクを体験的に研修する。

Step2

担当者による検討会の実施

11月9日

『親学』の実施に向け、関係者が集まり、当日の内容・流れ・役割分担・準備等について参加者の実態を考え、反応も予想しながら検討する。

Step3

『親学プログラム』を活用した幼児学級の実施

11月18日



担当者がチームを組んで、進行も託児もバッチリ

『親学プログラム』 「あなたならどうする？」を実施

- Q1 朝食はパンがよい。
- Q2 子どもをあやすときは、おんぶより抱っこがよい。
- Q3 食事は家族そろって食べた方がよい。
- Q4 習い事は早くからはじめた方がよい。

※この質問に対して、自分の考えで部屋の四隅に分かれ、想いや価値観を出し合いました。そこから学びを広げ、深めていきました。

[手法…4つのコーナー]



「わかちあい」では、新米ママの質問から先輩ママのアドバイスへと発展

「感情的に怒ることはないですか？」
「よいストレス解消法を教えてください!!」

Step4

『親学プログラム』を活用して 大庭公民館 主事 佐伯 純

参加者からは「普段の会話の中では話題にしにくいことについて他の方の意見がきけてよかった」という感想が多く、幼児学級では、季節行事等で楽しく過ごすことに加え、子育てについてじっくり考え、分ち合う場の提供が必要だと改めて強く感じました。

『親学プログラム』を活用したことで、ボランティアの幼児学級運営力も高まり、参加者が積極的に意見交換を行う場づくりができました。このことは、地域一体となって子育て支援へ取り組むための新たな展開へのヒントを得たように思います。

今後も、このプログラムを上手く取り入れながら、地域の幼児学級としての役割を果たしていきます。

実践紹介 No.2 大田市三瓶公民館 押越主事の取組み

「『親学』の必要性はわかっているけど、いざ講座を開くと…??」
新しいことにチャレンジするときには、だれでも悩みや不安はつきものです。
工夫しながら実践されている三瓶公民館押越主事の実践を紹介します。



point その1

『親学講座』の時間をうまく捻出する

働く親の負担を考慮して、迎えを30分早め、帰りを30分遅らせて、『親学講座』の時間を確保しました。
(志学保育園での実践より)

point その2

ペアを組んでやれば、怖くない

近隣の高山公民館流水主事とペアを組んで、それぞれの得意分野を生かして、アイスブレイクとワークショップを分担して実施しました。慣れないうちは、仲間と一緒にやれば、気持ち楽になります。
(大田市子育て支援センターでの実践より)



雰囲気があっという間に和らげたアイスブレイク



ワークショップ「もし、子どもが〇〇で育ったら」を実施

point その3

「お出かけ講座」として位置づける

大田市では、今年度から「公民館職員によるお出かけ講座」がスタートしました。7つの公民館の主事が、自分の得意分野を生かして講座を開きます。押越主事は、「しまね学習支援プログラム」による『親学』をメニューに挙げました。

一人でも多くの方に、『親学』を広めていきたいという強い思いからです。

【親学プログラム】

「もし、子どもが〇〇で育ったら…」

もし、子どもが一貫性のないしつけをされて育つと?

人を信頼しなくなります。

もし子どもが他の子どもや平均値と比較されて育つと?

自尊心の低い人になります

*バラバラになったカードを、グループの合意で結んでいきます。



まずは、実践あるのみ
当たって砕ける
自分の得意なものから

「しまね学習支援プログラム体験講座」
押越主事 実践発表より

しまね学習支援プログラムの開発と普及

学級懇談会の時、短時間でできる学習プログラムがないかしら？

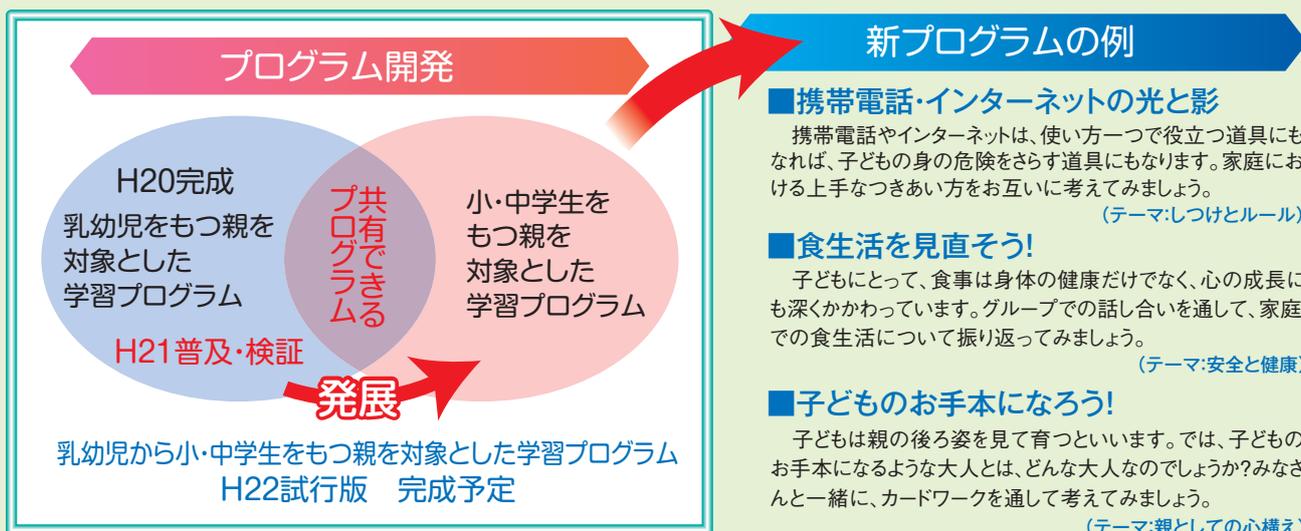


PTA研修会でも活用できる学習プログラムがあるといいなあ？

今年度『しまね学習支援プログラム』を用いた親学講座を実施した中で、「小学校・中学校における学級懇談会や保護者会、PTA研修会等において活用できる学習プログラムがあったら…」という意見が多くありました。現在、当センターでは小・中学生をもつ親を対象とした学習プログラムを策定中です。

新しいプログラムは平成22年度からの当センター主催講座において試行していきます。多くの皆様の参加と、内容についてのご意見をお聞かせください。

また、今後は『親学ファシリテーター』（＝しまね学習支援プログラムを活用した参加型学習の進行役）を養成し、島根県内に広く普及する予定です。



家庭教育シリーズ 「上手なほめ方・しかり方」

子どもたちをほめる時や叱る時に、どんなことに気をつければよいか考えてみましょう。こんな時あなたならどう言いますか？

A 夕食後、食器の後片付けを進んで手伝った時。

ほめる



B 叱る

家の中で走り回っていて、勢い余って花瓶を割ってしまった時。

Point



良いことをした時はしっかりと褒め、叱る時には感情にまかせず、受け止める子どもの立場になって考え、想いを理解することが大切です。「そう言われたら子どもはどう感じるだろうか」「子どもはどう受け止めるだろうか」、まずはここから考えてみましょう！

※「しまね学習支援プログラム」では、ほめる場面・しかる場面を二人組となり、ロールプレイ(役割演技)の学習手法から親、子どもそれぞれの立場を体験することで、より効果的な伝え方を考えます。

わがまちの社会教育の実践紹介!

飯南町

『生活♥ダイエットクラブ』発進!

飯南町志々公民館 主事 伊藤 志津江



古新聞を使ったエコバッグづくり

以前から志々公民館では『節約』『もったいない』を考えるおとなと子どもの金銭学習を進めています。今年度は金銭感覚を磨くことを目的に『環境学習』に取り組みました。その一つが『生活♥ダイエット講座』の開催です。予想以上に盛り上がり、3回の講座の終了を待たずに受講生が『生活♥ダイエットクラブ』を立ち上げました。

主な活動は、①マイバッグ持参ポイントカードの利用促進 ②グリーンカーテン活動 ③ペットボトルや割箸の回収 ④先進地視察です。

マイバッグ持参ポイントカードは志々公民館で発行しています。お店にマイバッグを持参し、レジで押印してもらってポイントを貯めます。(町外のお店でも、カードのことを知らなくても、断られたことなし!)

貯まったポイントを地域通貨のようにして環境面で地域に還元できないかと、活用方法を検討中です。

読者の皆さん、『生活♥ダイエットクラブ』にお知恵を!



どんなマイバッグでもポイントカードに押印してもらえます

松江市

「地域再発見の喜びを人と知恵の縁結びに」

地域楽習6年次に見えていること

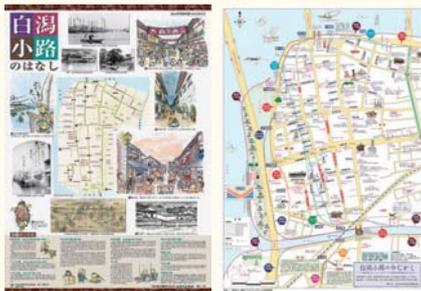
松江市白濁公民館 館長 仁田 玲江

白濁はかつて松江藩直営産業を独占し、いつの時代にもその努力と英知で松江の土台を支えてきた大商人の街です。現在高齢化や中心市街地空洞化等様々な課題に直面しています。

しかし「白濁商人」と特別の呼称で呼ばれた街のこと、負の要因も視点を変えれば強い力となるはずと進めてきたのが「地域楽習」と「温故知新 座談会」です。



「この小路は菅井屋小路といって…。」高齢者は伝承者です



「白濁小路のはなし」 「白濁小路の今むかし」
白濁小路マップ

6年次の今見えているのは、

- (1) 高齢者を伝承者に、「場」があれば、知恵や経験は「宝」に変貌する。
 - (2) 地域再発見の「驚き」があれば、興味関心が広がり、意欲が深まる。
 - (3) 結果、今、「人が集まり、発見が繋がり、人々が動き出した」ということです。
- 10月には、6年間の集大成に「白濁小路マップ」を発行しました。今や街づくりの出発点となっています。我が事になって考え、動き、繋がる人々を見るのは嬉しい限りです。

県内派遣社会教育主事奮闘中!

ふるさとの魅力を、子どもたちに伝えてほしい
～ふるさと教育 実地研修会～

浜田市教育委員会 派遣社会教育主事 石橋 孝彦



基本は「土」作り。農家の方の熱弁に耳を傾ける参加者

浜田市には、現在3人の派遣社会教育主事が教育委員会生涯学習課に配属され、席を並べています。複数配置であることを生かし、役割を分担し、協力しながら活動しています。最近では支援・助言活動が主ですが、派遣社会教育主事が中心となって進めていることもあります。

その一つが、「ふるさと教育地域素材実地研修会」です。これは、小中学校の教員に、ふるさと石見の資源(ひと・もの・こと)との出会いの場を提供しようという企画で、今年度で3年目となります。

初年度(平成19年度)は、広域化した浜田市の「お宝」を知ろうと、古代道やたたら製鉄・鉄の露天掘り鉱山の痕跡を訪ねたり、日本刀鍛錬場をたずねる研修会を実施しました。

平成20年度は、旧浜田市内の「見どころ」を知ろうと、浜田城と城下をたずねる研修会、広島と浜田とを結ぶ広浜鉄道のごん跡をたずねる研修会を実施しました。



「このアジは、脂がのっているかな。」興味しんしんの参加者

3年目(平成21年度)となる今年は、食育に活用できる場所を紹介しようと、有機野菜の栽培農家、製造ライン見学が可能な豆腐工場、アジ(鮮魚)用のポータブル脂質測定器を開発した県水産技術センターをたずねる研修会を企画しました。

どの研修会も、地域で活躍する人、地域の魅力を伝えようとする人など、ふるさとの「ひと」と教員との出会いの場になるように心がけました。

これからも、教員職である自分たちの「強み」を最大限生かして、現場の教員にふるさとの魅力を子どもたちにしっかりと伝えてもらえるよう、情報提供や支援をしていきたいと思っています。



これが二丁ふいごたたらです

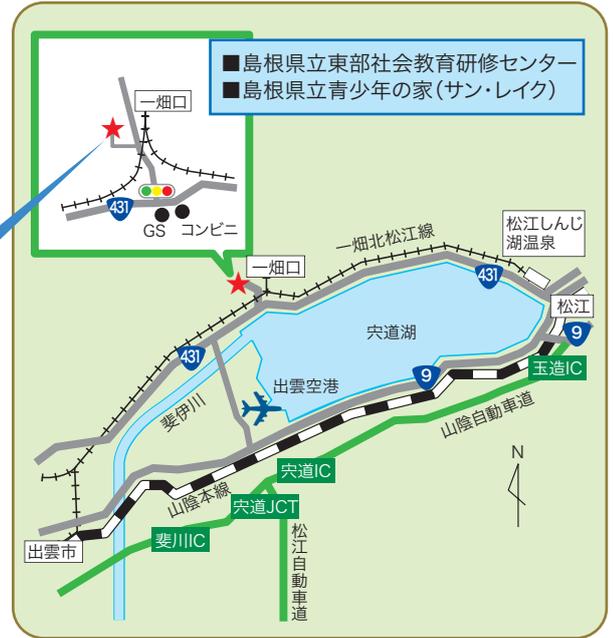
センターの名称変更と東部センターの移転について

当センターは平成22年4月1日からそれぞれ「東部社会教育研修センター」及び「西部社会教育研修センター」に名称を変更します。

あわせて、東部センターは「青少年の家」に移転併設します。

(右図参照)

4月1日以降は下記へご連絡ください。



3月31日までの連絡先

島根県立生涯学習推進センター

〒690-0011 松江市東津田町1741-3
Tel (0852) 32-5935 Fax (0852) 32-5937
URL:<http://www7.pref.shimane.jp/manabi/>

島根県立西部生涯学習推進センター

〒697-0016 浜田市野原町1826-1
Tel (0855) 24-9344 Fax (0855) 24-9345
E-mail:shogaisen@pref.shimane.lg.jp

4月1日以降の連絡先

島根県立東部社会教育研修センター

〒691-0074 出雲市小境町1991-2
Tel (0853) 67-9060 Fax (0853) 69-1380
URL:http://www.pref.shimane.lg.jp/tobu_shakaikyoiku/
E-mail:tobu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp

島根県立西部社会教育研修センター

〒697-0016 浜田市野原町1826-1
Tel (0855) 24-9344 Fax (0855) 24-9345
URL:http://www.pref.shimane.lg.jp/seibu_shakaikyoiku/
E-mail:seibu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp



4月～6月の主催講座のお知らせ

April & May & June information

東部社会教育研修センター 出雲

5月

課題別研修
27日(水) 子ども理解と社会教育

6月

基礎研修
3日(木) しまねの社会教育入門

基礎研修
9日(水) 社会教育施設入門

基礎研修
24日(木) 参加型学習入門

基礎研修
30日(水) コミュニケーション術入門

西部社会教育研修センター 浜田

5月

12日(水) 親学プログラム体験講座(大田市)

課題別研修
28日(金) 子ども理解と社会教育

6月

基礎研修
9日(水) プレゼンテーション術入門(江津市)

15日(火) 親学プログラム体験講座(邑南町)

基礎研修
21日(月) 社会教育施設入門・しまねの社会教育入門

編集スタッフから

4月1日から生涯学習推進センターは「社会教育研修センター」として、新たなスタートを切ります。

引き続きH21～23年度の3ヶ年で県内各地域に社会教育の指導者・担当者がバランスよく存在するように、様々な研修や講座・学習機会の提供を行います。

社会教育関係者のみなさまのスキルアップのため、積極的なご参加をお待ちしています。

※日程や会場をやむを得ず変更する場合があります。最新情報はホームページに記載しますので、ご確認ください。
※会場表記をしていない研修は、全てセンターで実施します。